



2009.12.4  
第140号

**発行**  
村会 町会 市会 委員会 協議会 支会 支支  
福島県 北郷南  
福教連 北郷南

**編集**  
福島県 教育庁 教育事務所  
福会津 教育事務所

**編集協力**  
小・中学校 校長会

# 「聞き書きがつなぐもの」



福島県教育委員会委員

遠藤 由美子

奥会津では、只見川流域七町村で組織する只見川電源流域振興協議会主催の「奥会津 子ども聞き書き百選」一枚の写真から「第2回が企画され、たくさん応募作品が奥会津書房に集まってきている。小学校5、6年生から中学生、高校生まで、奥会津管内の28校の児童生徒を対象に、祖父母や両親など家族への聞き書きをしようという試みは、子どもたちに多くの気付きをもたらしてくれているようだ。

古い一枚の家族の写真を手がかりに、祖父母や両親に当時の話を聞いた内容を書き記したものが、今春「じいちゃん ありがとう」という一冊の本になった。

子どもたちはわずかに銜はいを抱えながらも、写真を見ながら「このときじいちゃんはいくつだったのか」「ばあちゃんはいくつだったのか」と問いかける。自分の年齢と同じくらいの祖父や祖母が何をして暮らしていたのか、子どもらしい素朴な問いは、しかし、一人の人間の人生を振り返らせるだけの力を秘めてもいたようだ。写真を仲立ちに孫が掘り出した記憶の泉からは、尽きない思い出が溢れ出し

はじめて聞く戦死した祖母の兄弟たちのこと、祖父から聞く戦争の悲惨。子どもたちは、教科書で習った客観的な歴史とは異なる、痛みを伴う肉親の実人生を健気に受け止め、いのちが継がれてきて自分が今あることを再認識していた。さらに、その驚きを感謝に昇華させている。「じいちゃんが戦争で亡くなっていたら、僕はいないんだなと感じました」

「ぼくが今ここにいるのも、ばあちゃんのおかげなので、ばあちゃんには感謝したいです」という感想に多く触れた。語り手の方々にとっては、孫や子どもという親族に自らの人生の一端を語ることで、生きてきた証を再認識されたのではないか。

聞き書きを通して、子どもたち自らが語り手との関係性を深めたその過程は、大きな財産になったのではないかと思う。コミュニケーションは能力や技術ではないことを、深く心で感じることができたのではないだろうか。

## 平成二十一年度の管理訪問を終えて

要請による管理訪問と管理主事等訪問におきましては、訪問した各学校とも組織を生かした学校経営が行われ、多くの教室で生き生きとした教職員と児童生徒の姿を見ることができました。しかし、少人数教育の充実については、学力実態調査結果等から課題を把握し、少人数学級であっても指導形態や指導方法の工夫を継続することによりさらなる学力向上の取組みを充実させることが必要です。

また、事故や問題等が発生した場合には、適切な初期対応ができるように、管理職への正確・迅速な報告体制を確認する。

### 教職員の不祥事防止

校内服務倫理委員会の内容・方法を検討するとともに、講師・非常勤講師を含めた教職員一人一人の実態に即した指導を行うように改善し、不祥事防止に対する当事者意識を高める。

特に、教育公務員としての自覚のもとに、交通加害事故、速度超過、傷害・窃盗等非違行為、わいせつ・セクハラ、体罰、個人情報紛失・盗難・流出等の事故・事件防止の徹底を図る。

### 学校事故防止

日常の巡視・点検等の徹底を図り、施錠、火気管理、可燃物撤去等を完全に行い、学校火災等取組による学校事故の絶無を期する。

学校管理体制の改善・充実  
全教職員が自信と意欲をもち、自校の課題に向き合い、共通理解に基づく実践が確実に行われるようにする。



# 会津坂下町放課後子ども教室 「ばんげっ子クラブ」の事例

総務社会教育課

## ～ 地域の人、自然、伝統や文化等をつないで ～ 1 事業の目的・理念

放課後の安全で安心な子どもの居場所を設け、地域の方々の参画を得て、様々な体験活動や交流活動等を推進し、子どもたちの豊かな心と健やかな体を育てます。

- 農園作業、花壇整備、スポーツ、室内活動、季節の行事等をとおして地域を振り返り、地域のよさを学びます。
- ボランティアスタッフや地域の方々との交流、町内の金上キッズクラブ、わんぱくクラブ（児童クラブ）との連携活動等とおして、つながりの輪を広げます。

### 2 教室の実施場所

会津坂下町中央・坂下公民館、町民体育館、坂下小学校校庭、町所有の農園等で実施

### 3 教室の開催日

5月～3月における学校で授業が行われる月曜日と水曜日。（夏季休業中は水曜日のみ）

### 4 参加対象者

坂下小学校1年生～6年生全児童

### 5 参加実績

○H20年	開催日数	69回	
	参加者数	100名	
	登録率	15.5%	
	参加率	63.4%	
	参加率	70.6% (H21.9現在)	
○H21年	開催予定	72回	
	参加者数	100名	
	登録率	15.8%	
	参加率	70.6% (H21.9現在)	

### 6 申込み手続き方法

- 年度始めに坂下小学校全児童に参加募集要項を配付し、参加を呼びかけます。

- 5月上旬に保護者説明会を開催します。
- 参加費は徴収しませんが、食に関する活動は実費負担としています。

### 7 活動内容

	月曜日	水曜日
活動時間	4月～10月 放課後～16:30	放課後～16:30
	10月～3月 放課後～16:00	放課後～16:00
主な活動内容	農園作業・工作 理科実験	スポーツ活動

※ 活動開始前に学校の宿題や読書を30分程度行います。



日食観察会の様子（7月）

- 月曜日は、農園で野菜の栽培、花壇の手入れを行います。また、収穫時期には育てた野菜をとん汁に入れたり、焼き芋を作ったりしていただきます。農園作業が終了する10月頃からは、工作や理科実験、昔遊び等を行います。
  - 水曜日は公民館の大ホールや町民体育館、坂下小学校校庭でドッジビーやバドミントン、長縄跳び等のスポーツを行います。
  - その他季節に合わせた行事として七夕飾り、クリスマスツリーづくり、雪灯籠づくり、雛人形づくりを行っています。また、安全教室や交通教室、化石の発掘も行います。
- 8 事業を実施して  
参加児童、保護者の皆様からは「様々な体験ができて、とてもよい事業である。」という感想を頂いています。この事業をとおして地域の多くの大人が子どもたちの成長に関わりながら地域の教育力向上の一役を担っています。

## 「学校訪問」を通して 学校教育課

本年度より、学校訪問が要請に基づいて実施する形に変わり、教育委員会や学校にご苦勞をおかけすることも多かったのではないかと思います。また、学びの習慣を育てる事業による訪問も実施させて頂きました。

### 訪問の概要

#### 1 訪問件数(のべ回数)

要請訪問 62回

学びの習慣による訪問 31回

#### 2 訪問の特徴

- 教科の限定、中学校区での合同参観、小中の相互参観と協議など、各教育委員会や学校の独自性が見られました。
- 学びの習慣による訪問については、指導案の検討、校内研究との関連付けなど授業参観を通じた協議以外での訪問もさせて頂きました。

### 訪問で見られたよさ(◎)と課題(●)

#### 1 確かな学力の向上

〈学力向上グランドデザインの改善〉

- ◎ 週案にグランドデザインの取組み状況チェック表を入れ、定期的に評価し、改善に生かしている学校が増えてきた。
- 3年間の全国学力学習状況調査の結果を踏まえながら、今までの取組みの成果や課題を洗い出し改善に役立ててほしい。

〈授業づくりの充実〉

- ◎ めあてやまとめを意識した授業づくりに心がけている様子が見える。

- ◎ 活用や言語活動を意識し、子どもが考える場面、学び合う場面、伝え合う場面など子どもの主体的な活動を大事にする姿勢が見えてきた。

- ねらいが絞り込まれていないため、まとめて何を確認すればいいかが明確でない場合も見受けられる。

- 発問、話し合い、板書、ノート指導等授業を進める上で基本となる部分をもう一度確認してほしい。

〈基盤づくり〉

- ◎ 授業とどう結びつけるかという視点で家庭学習を考える傾向が見られてきた。

- 個人差に応じた量や質に配慮し、できる喜びを引き出す工夫にも目を向けてほしい。

#### 2 豊かな人間性・社会性の育成

- ◎ 学校内外の体験活動と関連付けたり、価値観により迫る授業が実践されてきた。

- 話し合い活動の充実とそれを支える学級づくりについて研修を深めてほしい。

#### 3 体育・健康に関する指導の充実

- ◎ 教材をよく分析し、運動の特性を考慮した授業が多く見られるようになってきた。

- 教師が模範を示すとともに運動量の十分な確保に努めてほしい。

来年もできるだけ学校の要望に応じられるように努力するとともに、申請方法については改善を図っていきたいと思います。

## ＜我が町からの情報発信＞

会津坂下町教育委員会

### 「史跡 陣が峯城跡とは」

歴史的な転換期には、会津が日本史に登場します。それは幕末の戊辰戦争であり、今年の大河ドラマ天地人の時代であり、ここで紹介する陣が峯城跡の時代もその一つです。

陣が峯城跡は、平安時代末期に築城された大きな二重堀を持つ城館跡で、鉄鍔と火を受けた櫓(秤の鍾)や中国製白磁や炭化したご飯などが多数出土しました。会津坂下町はこの時代、摂関家領の蛭河荘となっており、ここで荘園の管理を行っていたようです。しかし、保元・平治の乱後、平家方の慧日寺や越後城氏により略取されたことから、町内宇内地区でここをジョウノシロと呼ぶようになったと推測されます。

九条兼実の日記には、城四郎長茂が横田河原の合戦で木曾義仲に敗れ、「藍津之城」に引き籠もろうとしたら、藤原秀衡に押領されたとあります。この城こそが陣が峯城跡の可能性が強いと考えられました。

陣が峯城跡は、わが国の歴史理解に重要と認められ、平成19年に国指定史跡となりました。



## 巡回相談の活用を！

福島県教育委員会の地域教育相談推進事業では、LD、ADHDや発達障がい等の障がいのある幼児児童生徒の教育に関し本人や担任の先生、保護者の方々に必要な支援を行っています。

会津教育事務所域内は、現在6名の巡回相談員が学校現場からの要請に応じてカバーしています。今年度10月末現在の巡回相談件数は154件ですが、これから益々ニーズが増えると考えます。巡回相談員は、気になるお子さんが在籍する学級の授業を参観したり、行動の様子を観察したりしながら、一人ひとりに合った支援の方法について相談やアドバイスを行います。

学校からの電話一本で、巡回相談員が伺います。  
(手続きや旅費等の心配はいりません。)

- ・何となく発達が遅れているようんだけど…
- ・落ち着きのない子やすぐにキレる子へのかかり方を知りたい。
- ・個別の指導計画を作りたいが…
- ・校内支援体制、家庭や関係機関との連携 など

お気軽にお電話ください。



会津教育事務所 0242-29-5486  
(専用回線)

## 農業を通して 地域のよさを学ぶ



喜多方市教育委員会 教育長  
菅井 一良

- ・曲がったキュウリでも美味しいのに、なぜ売らないのですか。(スーパーでのインタビューから)
  - ・ウサギさんがニンジン好きなわけわかったよ。(間引いたニンジンの葉を炒めて食べた後で)
  - ・田んぼは、美しいダムです。(A男の作文)
  - ・トマトが赤くなると夏休みです。(B子の日記)
- 食農教育5年、農業科2年目の取り組みの中で見つけた子ども達のつぶやきである。

農業科は農業後継者を育てる授業ではない。本市の基幹産業である農業への関心、飯豊山の伏流水の恵み、自然への畏敬、食育や環境への気づき等々を総合的に学ぶ学習である。従って土づくりから種蒔き、肥培管理、収穫、食品への加工までの一連の体験を地域の多くの方々の協力を得て学習する。「教師の工夫ひとつで、教科学習に生かす素材はたくさんある。」とはT校長の話。

農業がうまく機能している地域は、経済も活性化していると報告もある。農業体験を通して、子ども時代にしか育むことのできない感性を培い、地域のよさを心と身体でふんだんに感じてほしい。

## ～食育事業の紹介～

食という字は「人」に「良い」と書きます。つまり人を良くすることを育むことが「食育」です。

これまで知育・徳育・体育の三本柱の基本理念から成り立ってきましたが、国が新しい方針を定め、この三本柱に「食育」が加えられました。食育基本法、食育推進基本計画に基づき、「福島県食育推進計画」が策定され「ふくしまっこ食育指針」をもとに子どもたちが知識だけでなく家庭・地域との連携のもと、教育活動全体で望ましい食習慣の形成と食に関する適切な判断力と実践力を身につけるため、食べる力、感謝の心、郷土愛の実践が繰り広げられています。「食育推進モデル地域事業」では西会津町給食センターと受配校の協力を頂き、各学校と連携して食育を推進しています。また、農業高校と小・中学校との連携による食育、小学生が買い物ゲームやサラダ作りを体験し、食べ物に対する理解を深める活動のほか、今年度の新しい事業として、「高校生の栄養教室」では各高校の食育関連の講演やスポーツに取り組む生徒に対する必要な栄養学、これから一人暮らしを始める生徒に総合的な食の指導などを行っています。食育を推進するためには多くの方々にネットワークを広げ、情報を収集しながら交流を深めることが大切です。



# 作品と指導

習字

猪苗代町立緑小学校  
4年 柴田 菜摘

# 力走

四年 柴田 菜摘

画の長さや方向は、字形を整えるための重要な要素です。文字を書く際には、画の長さや方向で字形が決まることを意識して書くように指導しました。「力走」という字にふさわしい作品に仕上がりました。

指導者 中村 良子

工作

Funin Kagaku Ninjin



北塩原村立さくら小学校  
1年 共同作品

身の回りにある材料を使って、接着を工夫しながら、子どもたち一人ひとりが好きな動物を作りました。その後、緑色の画用紙を原っぱにし、作った動物がしていることを楽しく想像させながら飾るようにしました。

指導者 山崎 裕美

絵

会津美里町立高田中学校  
1年 小澤 廣大



手と手の重なった部分の色の変化や蛇口の立体的な表現、背景の色を黄緑にすることで、全体的に明るく目立つポスターに仕上がっています。

指導者 湯田 由記子

# 私の抱負

ほっとできる空間・存在に



猪苗代町立  
吾妻中学校  
養護教諭  
荒川 紗織

吾妻中の「保健の先生」として慣れない職務に追われ、あっという間に半年が過ぎました。日々、先生方に支えていただきながら、生徒たちと接しています。私が目指す保健室は、生徒全員がほっと安心できる居場所となることです。保健室は全ての生徒のためにあるものですが、必ずしも全員が保健室に来るわけではないと思います。しかし、生徒たちは学校生活の中で、体や心の問題、ちょっと困ったことなど周囲にSOSのサインを出していることがあります。私は、そのような生徒のサインを見逃すことなく、必要な支援を必要分だけ支援できる養護教諭を目指しています。そのためにも普段からほっとできる保健室を作り、先生方と連携しながら生徒理解を深め、頼りになる養護教諭になれるよう日々努力していきたいと思えます。

栄養技師になって



会津若松市立  
湊小学校  
栄養技師  
鈴木 絵利子

栄養技師として勤務してからあっという間に半年が過ぎました。親身になって相談のって下さる先生方、励まし合える同期の仲間がいることをとても心強く感じています。先日はT・Tで食育の授業をさせて頂きました。初めてのことでも戸惑いもあり、準備は大変でしたが、子どもたちが意欲を持って取り組む姿が印象的で、やりがいがあると感じていきます。子どもたちをより引きつける教材研究を大切にして、次回につなげていきたいと思えます。今後も食の安全・安心に気をつけ、日々の業務を一つひとつ大切に、給食を生きた教材として活用できるように献立作成、給食指導を心がけていきたいと思えます。

スクールカウンセラーとして



喜多方市立  
第二中学校  
スクールカウンセラー  
佐藤 雅枝

これまで働いたことがない学校現場での仕事ということで、不安と緊張の中、4月に第一歩を踏み入れてから7ヶ月が過ぎました。校長先生を始め先生方に話を伺いながら、生徒や保護者の方々とお会いしています。お会いする方は皆さんそれぞれいろんな思いをもって相談室を訪れます。友人や先生との関係、親子関係もあれば、自分自身についてのことなど。また、周囲からの勧めで来室して、何気ない話をしていくだけのこともあります。その中で心身の緊張がとれて少しでも楽になれるようにと心がけています。限られた時間の中ではありますが、今後もより一層先生方との連携をとりながら、「その人らしく」過ごせるよう援助できればと思います。